

ボランティヤ活動グループ。訪問記



食でつながる愛の絆
フードコミュニティ



9月9日(金)午後、下溝にあるフードコミュニティを、DVD制作実行委員の杉本さんがビデオ制作のため取材というごことで、わたくしたち広報委員も一緒にじゃまさせていただきました。アパートの一室が活動の拠点になっていて、何人かのボランティアの方が仕分けの作業中です。
代表の中臺博さんと副代表の風間真起子さんにお話をうかがいました。

◆フードコミュニティとはどういうものか？
設立は平成28年10月。メンバーは現在17名。貧困や飢餓をなくし、人々が安定した食事がとれるよう活動をしています。

また、食材の有効活用によるロスを削減し、必要とする人々に提供することで食の格差をなくしていきたいと思っています。

◆フードコミュニティの仕組みを教えてください。
個人や企業、各種団体から食材や日用品などの提供を受けて集荷保管し、賞味期限などを確認したのち、選別、箱詰めして「子ども食堂」「子育て世帯」「高齢者向け食堂」「養護施設」「生活困窮世帯の支援団体」などに無償で提供しています。



代表の中臺さん



副代表の風間さん

◆フードコミュニティの具体的な活動は？
主な集荷先は、市内のフードバンク団体で『セカンドハーベストジャパン』『フードバンクかながわ』『セカンドリークかながわ』の3か所です。そのほか、JASがみはら市に寄せられるフードドライブ品、農家さんからの野菜、そして企業からも寄せられるフードドライブ品や企業内の余剰在庫などが主な集荷となっております。

配送にはスケジュール表を作り市内の子ども食堂や子育て世帯などに手分けして届けています。集まった食材などの仕分けにも大変な時間と労力がかかります。例えば子育て世帯には、現在65世帯に配布していて月1回お届けしていますが、取りに来られる方には指定した場所まで受け取りに来ていただいています。

メンバーは男女30代から70代と幅広く、1日2〜3時間、月に数日など仕事や家事の合間での活動です。他にも事務作業などもあります。興味のある方はご連絡をお待ちしています。自分の時間と思いでお手伝いをしてくださいれば嬉しいです。

仕分け作業は慣れないとなかなか難しい面もあります。子供の人数はどうか、本当に困っている人なのか、それぞれの

家庭の事情もつかがっておき状況に合わせた物を届けられるようにしています。赤ちゃんのミルク、贅沢品、嗜好品、洗剤などの日用品も喜んで受け取ってもらえますので歓迎です。

提供品は市内リサイクルセンターや市役所本館の階など「フードドライブ実施拠点」で受け付けています。ここに寄せられた市民の皆さんからの提供品を市が取りまとめ、フードコミュニティが預かりしています。たとえ缶詰一つでも、たくさんのお善意が集まると多くの困窮者を救う食材量となりありがたい支援です。

また「援助を求めたい方は市社協の窓口にご相談ください」と。自分から声をあげてほしいと、力強くおっしゃっていました。

*次ページに続きます。

*フードドライブとは

家庭で余っている食品を持ち寄り、フードバンクや福祉施設などに寄付することで、食べ物を必要としている人に届ける活動をフードドライブといいます。

*フードドライブ実施拠点

- 市役所本館6階資源循環推進課
- 橋本台リサイクルスクエア
- 麻溝台リサイクルスクエア
- 津久井クリーンセンター



提供品の仕分け作業中です！